

■ 事業のセールスポイント

- 【次世代見守り①】 検知器搭載レンタサイクルによる見守りサービスの質向上と自転車事故削減
- 【次世代見守り②】 スマホなどの活用によるコストを抑えた見守りサービスの広域展開
- 【高齢者の健康】 高齢者のデジタルデバイドと運動不足の解消を目指した遠隔での健康増進サービス

■ 対象区域の概要

名称	加古川市全域
面積	約 138 km ²
人口	約 26 万人

位置図



自然と歴史にあふれる東播磨地域の中核都市



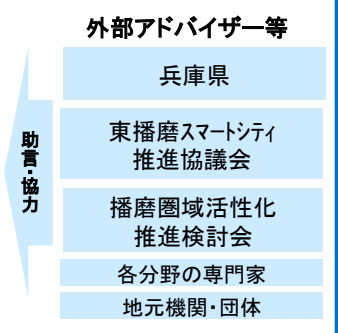
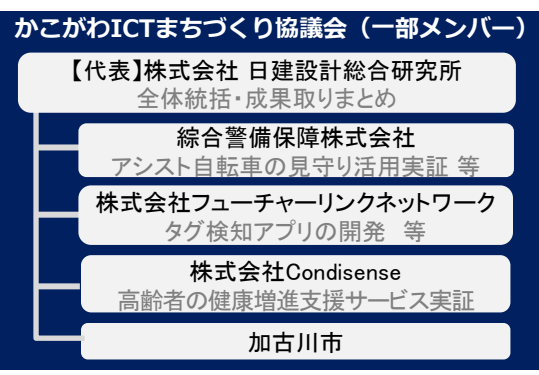
■ 都市の課題

次世代見守り	✓ 地域防犯活動の維持
	✓ 認知症の恐れのある高齢者の徘徊行動への対応
①	✓ 移動式検知器の拡充
	✓ 移動手段としての自転車利用促進と事故防止策の検討
②	✓ 広域連携したシームレスな見守りサービスの実現
	✓ コロナ禍の高齢者の外出自粛による運動・コミュニケーション不足の解消
高齢者の健康	✓ コロナ禍の高齢者の外出自粛による運動・コミュニケーション不足の解消

■ 解決方法

次世代見守り①	✓ タグ検知器及びGPSを搭載した最新式電動アシスト自転車を活用したレンタサイクル事業の開発と走行データの利活用
次世代見守り②	✓ スマホ一つで見守りボランティアになれる「広域見守りタグ検知アプリ」の周辺自治体における普及
高齢者の健康	✓ 筋力等の身体データを測定するウェアラブルデバイスとリモート開催の健康講座を合わせた新サービスの提供

■ 運営体制



■ KPI (目標)

施策	評価指標 (KPI) 例	目標値	目標年次
次世代見守り	1 かこがわアプリのユーザー数	5,000人	R4年度
	2 子育てがしやすいと感じる市民	70%	R8年度
	3 刑法犯認知件数	1,800件	R8年
	4 交通事故発生件数	1,050件	R8年
	5 地域の安全対策への満足度	65.0%	R8年度
高齢者データ	6 高齢者に対する支援への満足度	54.0%	R8年度
	7 外部機関等とのデータ連携数	25件	R4年度

■本実行計画の概要(実証メニューのロードマップ)

取組内容	2020	2021	2022-23	2024	中長期
【次世代見守り①】 検知器搭載自転車による次世代見守り	試行実証	実証	拡大実証	実装	～新規サービス
【次世代見守り②】 広域見守りタグ検知アプリによる次世代見守り	実証	実証	拡大実証	実装	開発・実証
【高齢者の健康】遠隔環境での健康増進活動支援サービス実証	開発	実証	拡大実証	実装	等検討～

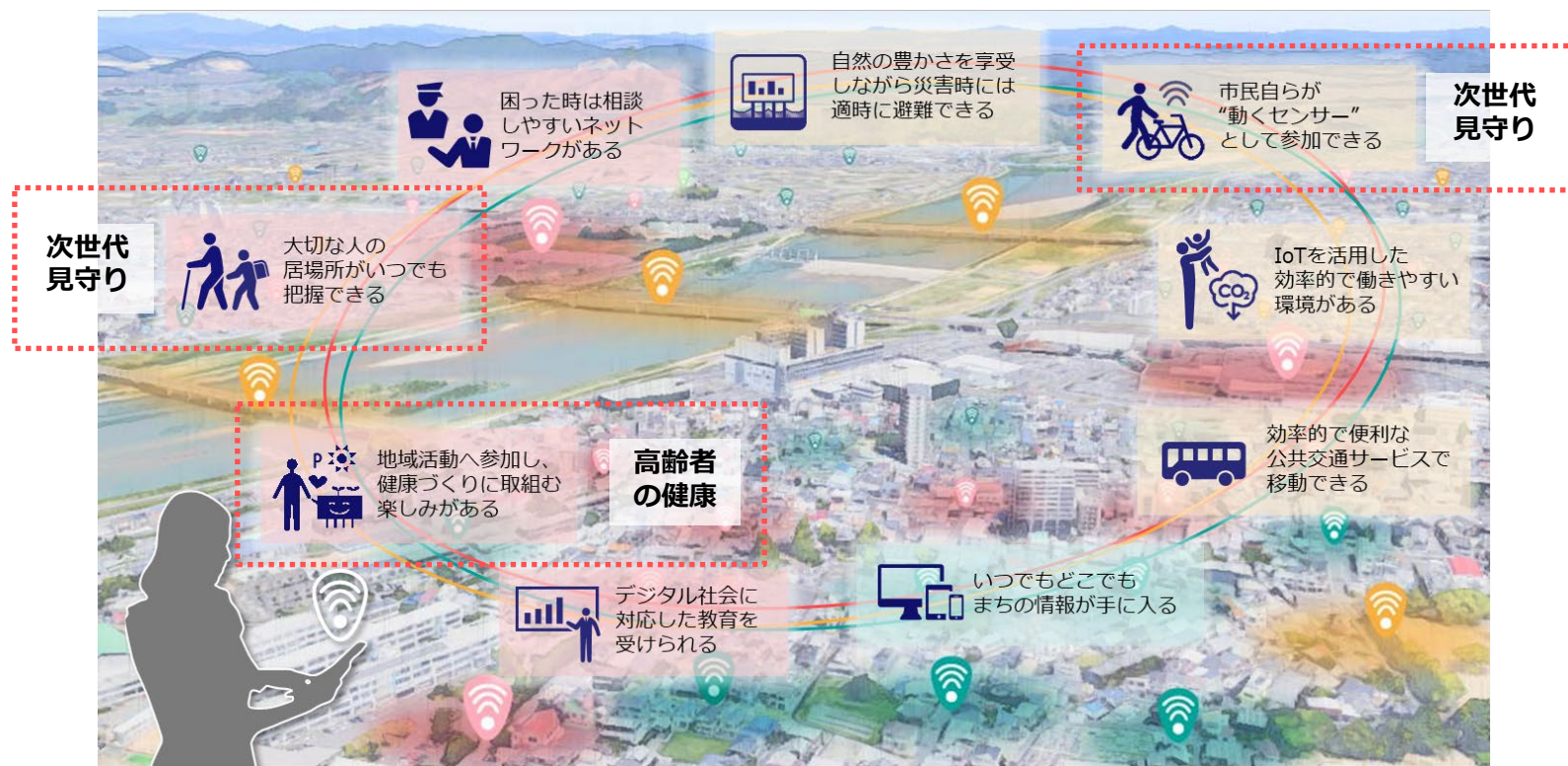
誰もが豊かさを享受できる スマートシティ加古川

～「幸せを実感できるまち加古川」の実現に向けて～

【市民】 市民のQOLや利便性を向上するサービス

【まち】 都市機能の強化や都市課題の解決

【行政】 デジタル行政の推進



【次世代見守り①】 レンタサイクルによるタグ検知／走行データによる運転特性の把握／事業性の検討

【次世代見守り②】 アプリによるタグ検知／広域展開事業スキームの検討

【高齢者の健康】 リモート健康講座による運動・会話促進／アンクルバンドによる身体データの収集

■ 実証実験の内容

次世代見守り① 検知器搭載レンタサイクル

- ✓ レンタサイクルによる見守りタグの検知状況(固定式検知器の補完等)を検証
- ✓ 走行データ(速度、経路等)から自転車事故防止策を検討
- ✓ レンタサイクルの利用状況から事業成立性を検討



次世代見守り② 広域見守りタグ検知アプリ

- ✓ アプリによる見守りタグの検知状況(市境を越えた連続的な検知等)を検証
- ✓ 広域展開事業スキームの検討(サービス内容、データ管理等)



高齢者の遠隔環境での健康増進活動支援

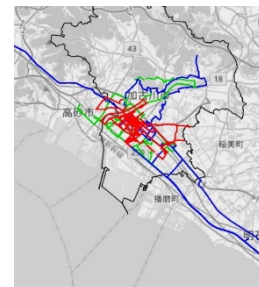
- ✓ リモート健康講座による運動習慣・会話等の向上を検証
- ✓ アンクルバンドが取得する身体データの利活用可能性を検討



■ 実証実験で得られた成果・知見

次世代見守り① 検知器搭載レンタサイクル

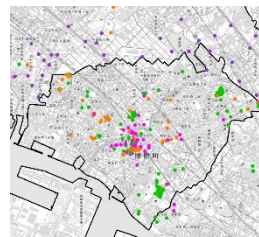
- ✓ 2か月(走行日数45日)の間にレンタサイクル3車両で、一般向けのタグが60個(1.3個/日)検知された
- ✓ 公用車と比べ、検出限界距離が1/4程度である分、検出場所の誤差が比較的少ない。また、幅員の狭い道路上でもタグが検出された



全区間の軌跡(抜粋)

次世代見守り② 広域見守りタグ検知アプリ

- ✓ 加西市・播磨町ともに広域見守りタグ検知アプリによる検出が多数確認され、町内の固定検知器設置有無に依らず、一定の密度・範囲での有効性が確認された
- ※播磨町は固定検知器設置なし



タグ検出場所(播磨町拡大)

高齢者の遠隔環境での健康増進活動支援

- ✓ 高齢者のデジタルに関する課題が浮き彫りになった
- ✓ 実証の期間中にデータ収集方法の改善を行ったことにより、後半ではノイズの軽減を行い、運動習慣による各指標の取得、一定の改善が確認された

- 【次世代見守り①】サイクルポート・シェアサイクル台数の増設
- 【次世代見守り②】近隣自治体との更なる連携
- 【高齢者の健康】デジタルデバイスでも使用可能なアプリ・デバイスの改修

■ 実証実験で得られた課題

次世代見守り① 検知器搭載レンタサイクル

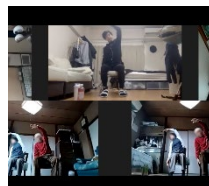
- ✓ 移動体として、公用車では届かない範囲をカバーするためにも見守りサービスの充実化が必要
- ✓ 自転車事故防止策：観測された危ない運転挙動に対するマナー啓発活動などを検討する必要あり

次世代見守り② 広域見守りタグ検知アプリ

- ✓ 近隣自治体の参画を促すスキーム作りが重要であるが、既に同類のサービス（BLEタグではなく、GPSを利用したものなど）が導入されていたり、ターゲットとする見守り対象者の範囲が異なっていたり、予算等の関係から庁内整理が難しい
- ✓ 見守りボランティアを増やすための積極的な情報発信やインセンティブの提供

高齢者の遠隔環境での健康増進活動支援

- ✓ 高齢者のデジタルへの抵抗感の解消
- ✓ 無料で参加できる他の地域活動もある中で、遠隔やデータ利活用による付加価値を感じていただき、有料サービスとして成立するか否か



Zoomでの実証の様子

■ 今後の取組：スケジュール

取組	2022～2023	2024～
次世代見守り①	<ul style="list-style-type: none"> • 2022年度事業として、シェアサイクル及び高齢者見守り自転車を導入する社会実装を行うことで、より広範な利用・見守りを図る予定 	実装
次世代見守り②	<ul style="list-style-type: none"> • 2022年度以降、近隣自治体との実証を継続拡大し、見守りサービス事業者のシステム改修やデータの取り扱いについて検討予定 	実装
高齢者の健康	<ul style="list-style-type: none"> • アプリやデバイスを実用に耐えうるレベルへ改修する予定 • その上で、技術的な制限を踏まえてサービスの全体の枠組みやデータ利活用の可能性について検討予定 	実装